

平成30年度 当初予算編成方針

平成29年10月19日 福島県

1. 本県の現状・課題

- 複合災害に見舞われた本県の復興はいまだ途上であり、復興の進度の違いや避難の長期化に伴い、生活の再建や事業・生業の再生など様々な課題に直面している
- 一日も早い復興の実現と地方創生の推進に向けて、膨大な事業量に見合う**長期的かつ安定的な財源を確保**することが必要である
- 子育て支援の強化を始めとする人口減少対策や、今後増加が見込まれる公共施設等の維持管理・長寿命化対策等、**中長期的な視点に立って財政運営**を行う必要がある

2. 基本的な考え方

復興・創生枠

- 復興と地方創生を車の両輪として、効果的かつ戦略的に施策を展開するため、総合計画の11の重点プロジェクトを推進する取組に対し**最優先に予算配分**を行う
 - 復興…避難地域等の復興再生、被災者の生活再建支援及び事業・生業の再生支援、風評払拭・風化防止対策の強化 等
 - 地方創生…結婚・出産・子育て支援の強化、交流人口の拡大、定住・二地域居住の推進、心身の健康を守る取組 等
- これまでに執行した事業の効果をしっかり検証しつつ、本県の復興のステージに応じた施策を適切に実施していくため、あらゆる方策を講じて必要な財源を確保しながら、効果的な事業構築を図る
- 老朽化が進む公共施設等の維持管理・長寿命化対策等について、計画的に取組を推進する
- ゼロベースから事業の必要性・優先度を十分に検証し、事業のスクラップ・アンド・ビルドを徹底する

3. その他

- 地域住民等の声を県の施策に適切に反映させることができるよう、市町村や関係団体、国、県の出先機関等と緊密な連携を図ること
- 部局や課の枠組みにとらわれることなく、組織横断的な視点で連携を図ること
- 適切な進行管理と予算の着実な執行を踏まえた事業構築を図ること
- 事業に要する財源として、県債を活用する場合は、後年度の財政負担にも留意すること
- 当初予算は、年度間の見通しに立って編成するものであること
(復興・創生経費については、事業の進捗や国の状況等を踏まえ、適切に対処)

平成30年度当初予算の編成について(イメージ)

復興・創生枠

【別枠管理】

11の重点プロジェクトを中心とする
復興・創生に係る経費

※ あらゆる方策を講じて財源を確保すること

《11の重点プロジェクト》

| | |
|--------------|----------------------------|
| ① 人口減少・高齢化対策 | ⑦ 農林水産業再生 |
| ② 避難地域等復興加速化 | ⑧ 中小企業等復興 |
| ③ 生活再建支援 | ⑨ 新産業創造 |
| ④ 環境回復 | ⑩ 風評・風化対策 |
| ⑤ 心身の健康を守る | ⑪ 復興まちづくり・ 交流ネットワーク基盤強化 |
| ⑥ 子ども・若者育成 | |

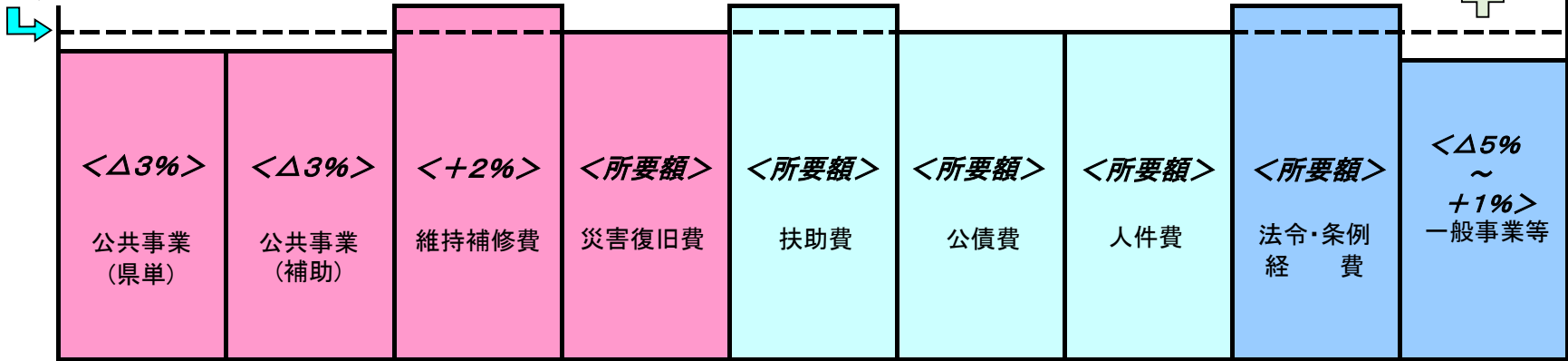


通常枠

※ 維持補修費等は、今後、増加が見込まれる財政需要に適切に対応するため、前年度同額をベースに1~2%を上乗せ

特別な財政需要に対応する経費を加算

平成29年度当初予算
(一般財源ベース)



(H29:Δ5%)

(H29:Δ5%)

(H29:+2%)

(H29:+1%またはΔ10%)

【投資的経費(公共)】

【義務的経費】

【その他の経費】

事業費総額